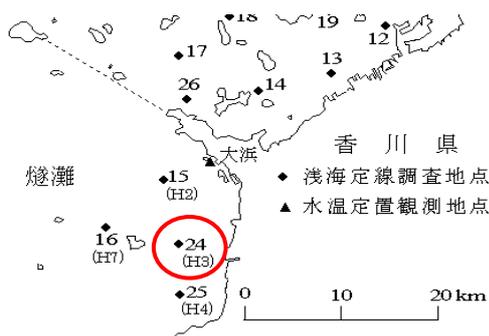


# 燧灘底層の溶存酸素について(お知らせ)

平成23年8月17日  
香川県水産試験場

調査結果 平成23年8月2日



定点	採水層 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素量	
				(mg/L)	(mL/L)
15	0	28.05	31.43	6.98	4.89
	B-1	22.14	32.07	6.76	4.73
16	0	27.33	31.45	7.02	4.91
	B-1	22.57	32.03	5.67	3.97
24	0	27.92	31.50	6.81	4.77
	B-1	22.34	32.05	3.64	2.54
25	0	29.57	29.82	7.32	5.12
	B-1	22.24	32.05	5.47	3.83

※定点24の底層では、7月にも2.8mL/Lを記録していた。

図1 香川県浅定調査結果(8月)

燧灘東部海域では、夏季において、中層から底層に、**底部冷水**と呼ばれる冷たい水塊が発達することが知られています(Ochi and Takeoka, 1986)。(2003年の例を図3に示します。)

2011年においても、この底部冷水が形成され、貧酸素水塊が発達することが懸念されます。8月上旬には、メタガレイ、ゲタ、メバル、シラサエビが普段獲れない時期、場所、漁法で漁獲されています(水試、聞き取り)。愛媛県水産研究センターからも、より広範囲に貧酸素水塊が形成されている調査結果が寄せられています(図2)。

**今後、東よりの風が続くと底層の貧酸素水塊が沿岸の表層に寄ってくる可能性も考えられますので、魚を活かす際などには、注意をしてください!**

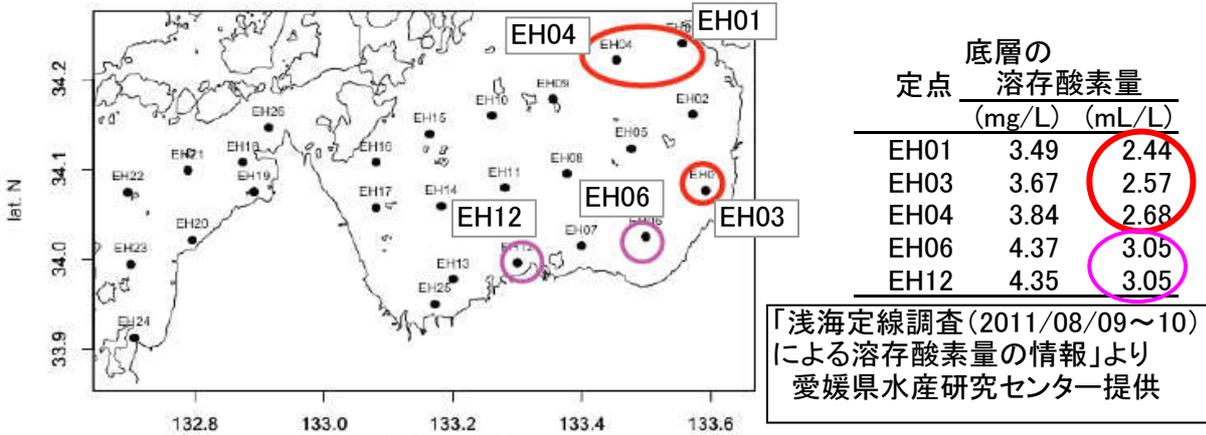


図2 愛媛県浅定調査結果(8月)

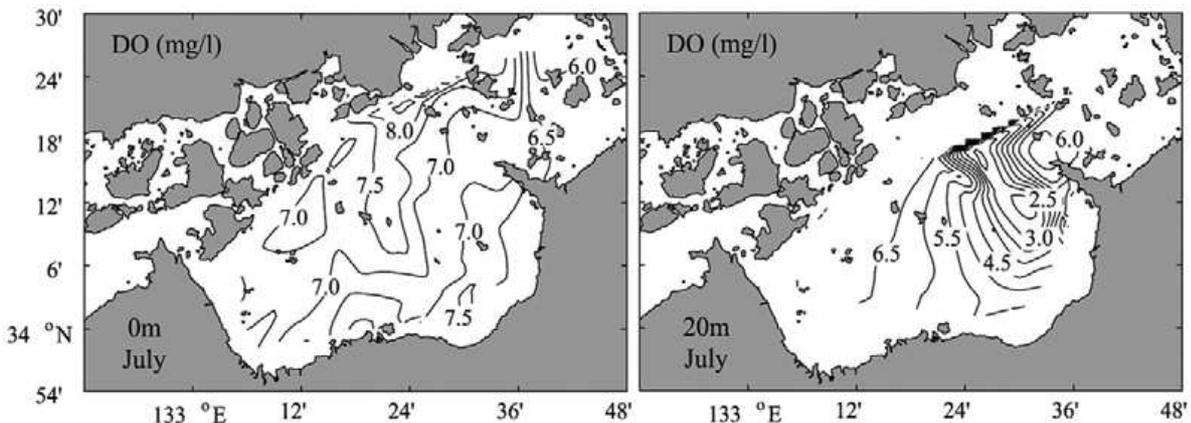


図3 2003年の燧灘の溶存酸素 成層期における燧灘の海洋構造に関する研究(弓削商船高等専門学校 二村 彰・杉本統一、2011)

## 参考文献

Ochi, T. and H. Takeoka (1986): The Anoxic Water Mass in Hiuchi-Nada Part 1, Distribution of the Anoxic Water Mass. J. Oceanogr. Soc. Japan, 42, 1-11.